

潰瘍形成という急性の症状を呈した。このことより、同じ口腔粘膜の接触性アレルギーでも、種々の臨症像を呈する場合があることが示唆された。

38. 北海道南西沖地震被災者への歯科的救援活動 —義歯紛失者への補綴診療活動から—

平井 敏博, 石島 勉, 越野 寿
池田 和博, 小西 洋次, 昆 邦彦
広瀬 哲也, 金子 寛, 雪野英一郎
家城 信良, 植木 和宏, 岡部 靖
橋川 美子, 長尾 浩美, 市岡 典篤
佐々木隆二, 大友 康資, 青木 聡
笠嶋 茂樹, 横山 雄一, 久保田博信
佐藤 由蔵, 寺澤 秀朗, 本間 宏典
村井 一仁, 山田 一晴
(歯科補綴学第一)

【目的】平成5年7月12日に発生した北海道南西沖地震は、広域にわたり、大きな被害をもたらし、特に、奥尻町では、多くの島民が地震直後に襲った津波と火災により義歯を紛失したため、不自由な食生活を余儀なくされた。これに対し、本学は診療班を組織・派遣し、義歯を紛失した被災者に対する歯科救援活動にあたり、96床の義歯を製作・装着した。この歯科救援活動に際して、アンケート調査を行い、災害時の歯科的問題点や、歯科救援活動のあり方について検討した。

【対象および方法】歯科診療班が義歯を製作・装着した男性20名、女性33名の計53名（平均年齢62.9歳）を対象として、まず、地震発生から11日後の義歯製作開始時に、義歯の紛失状況、義歯紛失に気付いたきっかけ、義歯紛失によって支障をきたしたこと、緊急援助食料の利用状況、および食事の摂取状況などについて調査した。また、新義歯を装着した53名中、装着3か月後に経過観察を行えた43名を対象に、新義歯の使用状況および使用感、新義歯装着によって改善された点および不快事項、

ならびに今回の補綴治療に対する感想などについて調査した。

【結果および考察】

1) 義歯を紛失した被災者の大部分は、食生活を中心とした日常生活に支障をきたしていたことが明らかになった。

2) 緊急援助食料のメニューや調理法に関して、義歯紛失者や義歯装着者に対する配慮が不十分であったことが示された。

3) 災害発生時の医療活動には歯科医師の参加が不可欠であり、とくに、義歯紛失者に対して、義歯の製作・装着を含めた歯科救援活動が行えるような体制の整備が必要であることが示唆された。

4) 今回の診療班により製作・装着した義歯の予後は概ね良好であったが、一部不良なものも認められ、義歯調整のための診療員の派遣を考慮すべきであったことが示された。

39. 本学臨床実習生における二等分法撮影の失敗頻度の評価

北 千景, 大西 隆, 市岡 智子
金子 昌幸

今日の歯科診療において、X線写真は欠くことのできない重要な診断情報源となっている。より正確な情報を得るためには、正しい撮影方法を習得する必要がある、

特に利用頻度の高い口内法デンタル撮影法は、歯科医師が確実に身につけていなければならない技術であると云える。放射線科では、臨床実習の一貫として、全顎口腔